

入選

生きるための水

福島県立会津学鳳中学校 二年 朱しゅ 熙寧きねい

「水」と聞いて頭に思い浮かんだのは、「星の王子さま」という本だった。星の王子さまは、私が最近読んだ本の中で一番心に残った一冊だ。水と本が何の関係があるのかと思うかもしれないが、ある場面面で水について考えさせてくれた。ある場面というのは、この本の著者であるサン＝ドゥグジュペリが星の王子さまと一緒に砂漠で井戸を探すという場面だ。何も見えない、何も聞こえない美しい砂漠を何

時間も歩き続け二人は井戸をみつめることができたのだ。星の王子さまは「水は心にもいいんだよ」と言っていた。私はまったくその通りだなと思った。砂漠の中を一生懸命に歩いて探し求めた水は、その一滴、一滴が渴いたのどを潤すだけでなく、疲れた心をいやし、満たしただろうなと思った。実際にも経験した事がある。例えば、真夏の暑い日に学校か

ら帰ってきてクーラーのきいた家に入り、冷たいシャワーを浴びた時。あの時私はゲージから解放され、空へ飛び出した鳥のような気持ちになった。また、定期テストの勉強をしていた時、母が「がんばってね」と言い残しながら隣に置いていってくれたおいしいハーブティを飲んだ時には心が温められ、がんばろうという前向きな気持ちにもなれたのもおぼえている。

しかし、昔の事を考えているうちに他の事で頭がいっぱいになっていた。日本ではいつでも好きな時に水を買う、飲むことができるが、星の王子さまのように長い道のりをかけてやっと水が得られる国の人々もいる。このことを考えていた私は五年生の時に水不足の事を学んだ授業でみた動画を思い出した。その動画は二人の女の子がはだしで家族のため

に遠い山へ水をくみに行くという内容だった。くみ
終えたタンクを頭にのせ家に帰る二人の姿は私の心
の何かを打った。家に帰り、もつと水不足について
調べてみたいと思った私は衝撃の事を知った。現
在、世界の約七億人が水不足の状況で、また不衛生
な水しか得る事ができない事によって毎日約八百人
の子ども達が亡くなっているのである。当時の私に
とってはすごく驚いた事実だった。

今地球で人々が飲める水の割合は全体の0.001パー
セントである。その他の水は海水やたん水で人間が
飲むには適していない。しかしその水を生きるため
にどうしても飲まなければいけない人もいてインタ
ーネットによると汚れた水を飲むと肺炎などさまざ
まな病気に感染しやすくなってしまおうさうだ。もし
自分が少しだけでも冷たいシャワーをあびるのをが
まんしたり、水を出したままにしなければ、世界で
何人の人達を死から救えるのだろうかと思う。もし
て何人の子供達を水をくみに遠い所へ足をはこばず
にすんで、学校で教育を受けさせてあげる事ができ
るのだろうか。

今の私には、節水、募金・寄付をすることしかで
きない。しかしこの二つをすることで人々に必ず役
に立つことができる。ユニセフによると三千円募金
をすることで汚れた水をきれいにする浄水剤約七千
錠に変わるさうだ。また、私は将来、医師になると
いう夢がある。日本だけではなく、外国でも活やく
ができたなら、何人の人々を救えるだろうか。

世界の一人一人には水を飲むという権利がある
が、むだにして良いというルールはない。いつか地
球に住んでいる人がみんなルールを守ればよりよい
世界をつくれると思う。地球に住む一員である私が
できることはほんの一部しかないが、他の人々に
「つたえる」ことで大きな進歩になる。チーム地球
のメンバーとして自分ができることをなすとげてい
きたい。